

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592100038		
法人名	社会福祉法人平成会		
事業所名	グループホーム神話の里		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町南郷上渡川字橋野原3057番地		
自己評価作成日	平成27年1月8日	評価結果市町村受理日	平成28年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4592100038-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=02">http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4592100038-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=02</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小・中学校、保育所が閉校・閉園し、子供の声を聴くことができなくなり、高齢者の方が多くなってきています。外出し交流する機会もなくなってきています。このような環境の中、社会資源が少なく、施設の利用者も交流する機会が限られています。今年度は教育委員会や社協、婦人会などの団体に協力してもらいながら、地域の一員として交流することが出来ています。自宅外出することのできない方を施設に招待し、運動会や敬老会等の行事での演奏を楽しんでもらうことができるのも、この地域だからだと思います。祭りに初めて演奏の部に参加した時は、舞踊の好きな利用者様が舞踊を披露されたことで、大変な反響でした。その人が一番輝いた日でしたが、付き添いをした私達や観客席の同年代の方は涙を流していました。地域の一員となれたのも、自宅が高齢者の介助をされている方が多いのも特色だと思いました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義を踏まえ、開設当初から地域とのつながりを大切にし、地域と積極的に関わるよう努めている。地域の高齢者や利用者がひきこもらない支援を目指し、なじみのサロンへの参加や祭りへの参加、公民館を利用した交流などの活動に取り組んでいる。地域の方が気楽にホームに立ち寄り、また、各地区の婦人会のボランティアの来訪や近隣からの差し入れなどもある。職員も婦人会に入り、連携を図っている。今後も地域交流の拠点となる更なる取組を期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「馴染みの場所で馴染みの人々に囲まれ、自分らしく生活が出来る。」の理念をもとに、一人ひとりの地域の行事やサロンなどを計画したり、施設の行事への参加依頼などで交流が出来る。	昨年、施設長がホームとしての在り方を検討するよう投げかけ、全職員で話し合い、ホーム独自の理念を作り上げている。地域との積極的な関わりや利用者一人ひとりへの行き届いたケアに理念が生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、各事業団体の研修や交流会に参加している。今年度は地域の祭りに利用者と職員が演芸の部に参加したり、地区の高齢者と教育委員会の協力で手芸クラブを発足することができた。	日常的に野菜や手作りのおやつのお返し入れがある。また、各地域の婦人会のボランティアも来訪するなど、近隣の人と触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政や公民館活動で認知症の研修に参加したり、グループホームの役割について施設主催の研修に地域の方の参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事の参加記録や現況報告について話し合い、委員会の会員が利用者と交流することで利用者や職員の現状について理解してもらい、意見を出してもらっている。また、運動会に参加し、日頃と違う職員や利用者の様子を見てもらうことが出来た。	会議には家族、地域の人、行政が積極的に関わり、理解や支援を得ている。また、ホームは行事や利用者の現況報告をし、意見や助言をもらい、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉担当者や町民課、教育委員会の職員が月に一回は施設に訪問し、美郷町便りを配布し、利用者や職員と直接話をしたり、職員と話をするなど協力関係が出来ている。行政、社協の担当が運営推進委員会の委員として意見交換が出来ている。	運営推進会議への参加はもとより、毎月、町便りを持参したり、時々ホームに来訪して交流を図るなど、行政が積極的に関わり、また、ホームも協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員が理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害については、全職員が理解している。不穏状態の利用者には落ち着くまで行動を共にするなど、その人に応じた対応を心がけ、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対しての言動については、職員同士で注意しあい、職員会議で職員心得についても十分に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の生活相談員や施設長が資料を持参し、説明を受けている。現在は支援を受けている利用者がいて、大体は理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には十分な説明を行い、その都度質問を受けるようにしている。解約や改定時にも説明を行い、不安なことはいつでも受付が出来る事を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族が意見や要望を言える関係作りに努めている。内容は運営推進委員会等で報告をしている。	家族参加の行事の折や来訪時等を利用し、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、意見や要望を引き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長が来園した際に、必要に応じ職員の意見を聞いたり、運営推進委員会でも職員の要望や意見を報告する。	職員会議時や日頃から、意見や要望を自由に言い合える環境づくりに努めている。出された意見や要望は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境を作っている。年間の目標について、それぞれが施設長に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修で学ぶ機会がある。地域の団体と協賛し、研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政、社協等との勉強会や交流に参加して、情報交換などを行っている。行事や合同行事を通して、お互いに交流が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人や家族、関係機関の職員と面談する機会があり、本人や家族の気持ちを確認し、不安の解消に努めている。また、随時、状況を把握し、信頼関係が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に自宅での生活歴や入所に至るまでの経緯を伺い、不安な事や要望を聞いている。入所時も要望や意見を伺い、随時、様子を報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人との面談で現在の状況を把握し、居宅支援事業所等、関係機関からも情報を収集し、安心出来る支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を把握し、職員と一緒に新聞たたみや食事、おやつ前のテーブル拭き、洗濯物をたたんで自分でダンスに収納するなど、お互いに協力し合うことが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族に意見や要望などを伺っている。また、家族と本人が気を使わず過ごせる時間を作っている。行事への参加をお願いしたり、園外活動等で自宅を訪問し、家族との絆を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	園外活動を利用し、自宅訪問や親せき、知人宅に出掛けて話をしたり、合同サロンを計画し、同年代の方と交流が出来ている。	理念に沿って、一人ひとりの生活を大切に支援している。趣味や地域のなじみの人との出会い、祭りなど、利用者が今まで培ってきた生活様式の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやゲームなどを通して、利用者同士が交流できる雰囲気作りに心がけている。また、食事の時のエプロンかけを手伝ったり、塗り絵やちぎり絵の出来ないところを助言し合ったりしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	急に他の施設に入所が決定した際は、施設の概況の説明や利用料金の説明を行うことで安心される。また、逆に当施設にボランティアなどで訪問し、交流がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や家族の面会時は、本人の考えを伺うようにしている。また、自由時間などを利用し、それぞれの担当と話をすることで希望や意向を聞いている。困難な場合は家族や職員で話し合いを行い、支援している。	日々の関わりの中で、表情や態度で察知している。家族の協力の下、慣れ親しんだ食物や嗜好品を差し入れしてもらい、提供するなど、その人の思いを大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活歴や生活環境を伺ったり、関係事業に情報提供を依頼するなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で心身の状態を常に観察し、記録を行っている。また、毎日の申送りの内容を検討しながら、一人ひとりの一日の過ごし方を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時、ケアの見直しなどでは、家族、本人、担当や施設のケアマネージャーと会議を行い、介護計画を作成している。月に一回、職員会議を利用し、ケア会議、モニタリングを行うことで、状態が変化した時に見直しを行っている。	本人や家族の意向、担当者の意見、また、日々の記録などを参考にし、介護計画を作成している。モニタリングも定期的に行い、状態が悪化した時には現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の一日の生活状況を毎日記録し、小さな気づきも逃すことなく、職員間で情報を共有している。また、申送りノートに記録し、一貫性のあるケアを行い、職員会議等で実践経過や結果について話し合い、個別援助の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を常に把握し、その都度ニーズに応えられるように、他職種間とも連携をとりながら支援に努めている。食事カロリー摂取の問題や代替え食品などについては栄養士に相談したり、必要な介護用品については生活相談員に相談するなどを行っている。		

宮崎県美郷町 グループホーム神話の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お寺や神社にお参りに行ったり、個々の地域のサロンに参加したり、合同サロンを行ったりしている。また、教育委員会の協力で手芸クラブに参加、祭りの演芸に参加して、生活を楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に受診ノートを作り、生活状況や心身の状態を記録し、受診時に医師に提出している。家族が受診対応している方に対しては、さらに残薬情報等を詳細に記録し、医師や師長、薬剤師が必要に応じ返信してもらうようにしている。	基本的には家族付き添いの受診となっている。ホームは、日頃の状態や薬の状況を記録した受信ノートを作成し、適切な医療が受けられるよう支援している。職員が代行した場合には、結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主に診療所の看護師に相談している。日頃の生活状況も受診ノートに記録し、情報を提供している。看護師が主治医に報告し、再受診の有無や次回の受診時の検査内容を伝えてもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添うことが多く、医師から直接症状や今後の治療について何うことができ、その後は職員が面会に行き、看護師から状態を聞くようにしている。また、家族からも心配事や不安なことについてなど連絡をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院の度に医師や看護師から今後の事について相談がある。主治医、看護師長、家族、施設の担当、居宅介護支援事業所等とカンファレンスを行いながら、今後の方針を家族や利用者の意思を尊重し決めている。入所時に施設の対応できる能力について、家族に説明している。	契約時に、本人及び家族にホームでできることについて説明している。必要に応じ、同一法人の老人福祉施設や協力医療機関と連携し、家族や関係者と話し合い、チームとして希望に沿った支援が行えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを確認し、対応している。他の団体等の研修に参加していて、今後も研修会や勉強会を計画していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を実施している。訓練後は利用者と過去に起きた火災などの災害について話をしている。また、総合防災訓練を計画し、近隣や消防団、本部の協力の下、夜間想定訓練を計画している。	地域との関係は良好であり、災害時における地域との協力体制を構築している。最近では長期の災害を懸念して水などを準備しているが、十分な備蓄とはいえない。	今後、有事における長期の孤立化を想定し、備蓄の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、声掛けには注意している。その人の生活歴を把握し、人格を尊重しながら声掛けを行っている。職員会議等でも反省し合い、接遇についても勉強を行っている。	利用者一人ひとりの育ってきた環境などを考慮し、方言などを取り入れたり、難聴の利用者には居室にて会話をするなど、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の考えや思いが伝えられるような雰囲気作りに気を付けている。余暇活動や自由時間を利用し、今後したいことや食べたいもの、行きたいところを伺っている。園外活動や行事等の計画に活かしていくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、その人の状態を確認し、その人のペースに合わせ日課を過ごす事が出来るように支援している。朝のおやつの時間を利用し、その人の思いなどを伺い、自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪はその人が希望した時や職員の声掛けで随時行っている。髭剃りは毎日声掛けし、本人が行う。女性は様子を見ながらふけ剃りをしている。入浴の着替えは準備が出来る人はお願いし、外出時は本人と話をしながら着替えをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や外食を楽しみにしている。嗜好も伺いながら、ぜんざいや甘酒等、おやつに提供している。菜園でとれた里いもや生姜を調理しやすいように下ごしらえしてもらったり、テーブル拭きや食事用エプロンを自分で出来ない人にかける手伝いをしてもらっている。	同法人の献立と食材が届き、調理しており、おやつ等も手作りをしている。慣れ親しんだ郷土料理や嗜好品の希望があれば家族協力のもと提供し、食事が楽しいものとなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立でバランスの良い食事が提供できている。また、病気や体調に合わせて食事形態を変更している。水分も基本量を摂取できるようにしている。随時、夜間帯など希望される時も準備が出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた口腔ケアが出来るよう工夫している。特に残存歯の方は、本人に確認しながら磨き直しをしている。舌苔磨きを準備し、いつも口の中が清潔に保てるよう支援している。		



宮崎県美郷町 グループホーム神話の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄間隔を把握し、声掛けや介助を行っている。入所時は紙オムツで入所されるので、状態を見ながら、使用する時間を減らし、ケア会議や家族とのカンファレンスでオムツ外しを行っている。失敗後は速やかに清拭や洗浄を行い、気持ちよく過ごせるよう支援している。	排せつチェック表を活用し、トイレで排せつできるよう支援している。入居時には声かけ・誘導が必要だった利用者が自立している例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方が多く、内服でコントロールでき、2日～3日で排便があっている。水分補給や食事に工夫をしたり、運動を勧めるなどしている。頑固な時は主治医に相談し、適切な指導を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来るようになってきている。一人ひとりの体調に合わせて入浴を行い、外出予定や受診などを考慮しながら、入浴が出来るように支援している。	湯の温度など、希望に沿って支援している。足の血流の悪い利用者には足浴をとり入れたり、季節に応じてしょうぶ湯やゆず湯にするなど、入浴が気持ち良いものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの考えで休息できている。昼食後の休息、体調に合わせた安静など、自由に過ごす事ができている。また、夜間は安眠できるように日中はゲームやレク、余暇活動を充実させるなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後はその都度、薬明細表に綴じ、いつでも確認できるようにしている。変更があったときは受診ノートや送りノート、薬や受診ノートに記録し、情報を共有できるようにしている。内服時は薬の説明をしていて、誤薬をしないよう、二重確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事を把握したり、好きな事や興味のあることを伺い、日常生活に活かす事が出来るよう支援している。地域の祭りの演芸に参加し、本人が舞踊を披露し、その後地域の婦人会と一緒に音楽にのせて体操を披露した。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、園外活動で一人ひとりの自宅周辺に出掛け、近隣の方と交流が出来ている。遠足で町外に出掛け、家族やボランティアの方と交流が出来ている。初めての祭りでは地域の方に送迎の協力をお願いした。	天気の良い日は近隣を散歩している。地域住民との交流に積極的に取り組んでおり、家族、ボランティアの協力を得ながら、様々な外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣い程度を預かり、定期受診や園外活動で外出した際に買い物をしている。介助が必要な方は、職員が必要なものを伺って買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い等を身元引受人に出している。宛名や文を書ける人はお願いし、かけない方は話を伺いながら、職員が代筆している。また、家族や親せきの方からもはがきが届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも気持ちよく過ごせるよう、清潔面や環境整備に注意している。夜間は灯りを気にする方がおられ、本人の希望に対応できている。季節を感じてもらえるよう、利用者と一緒にカレンダーやドア飾りを作成している。また、季節ごとの花を飾ったり、しょうぶ湯やゆず湯など季節を感じてもらえるよう工夫している。	共用空間は広々としており、採光も程よく、清潔に保たれている。随所に加湿器や空気清浄機を設置している。季節感のある作品を飾り、利用者が思い思いの場所でくつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話をしたり、共に過ごせるよう自由時間や食事時間の席を工夫している。お互いに手招きするなどして隣に座って昔話を楽しむことが出来ている。一人で過ごす事が出来るよう、椅子やソファを準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所事前に馴染みの物を伺い、持参してもらっている。自分で塗った塗り絵や家族や自分の写真を写真楕に入れ、飾ったりしている。また、余暇活動で作った作品を飾っている。	各居室にはクローゼットが設えてあり、思い思いの生活用品を収納している。また、手作りの作品や花、家族の写真などを飾り、その人らしい居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがわかりやすいように、ネームプレートなどで目印をして、安全に移動できるようにしている。		